

温泉、ホテル、産直センターの各施設を運営  
地元・大潟村の村づくりに、最前線で向き合う

株式会社 ルーラル大潟（代表取締役会長）**宮田 正樹**  
せい き



# 村出資の第三セクターとして、主に3施設を管理運営 村民の元気を応援、他地域の方にも楽しんでいただくな んな役割を課し、各施設の集客とおもてなしに励む

## 大潟村「指定管理者」 としての立場で

当社・(株)ルーラル大潟は、大潟村出資の第三セクター、いわゆる「三セク」と称される会社です。村の指定管理者として、公共施設の管理運営業務にあたっています。現在の主な引受け案件としては、温泉保養施設「ポルダーラー湯の湯」、プライダル・各種催事などにも対応する「ホテルサンルーラル大潟」、ならびに産直野菜・特產品センター「湯の店」(道の駅おがた併設)の3つがあります。いずれも、私が村長を務めていた時代に開設されたものです。

八郎潟干拓によつて生まれた広大な土地に大潟村が設置されたのは、昭和39年のことでした。第1次入植が、同42年。以降、第5次まで計589人(戸)が村に入り、當農を核にしてしまいます。

た自治体として歩み出します。ところが、いきなり難題が…。「〆余り時代の到来を迎へ、国から打ち出された稻作減反政策(生産調整)にどう対応すべきか?」という問題を突きつけられたのです。村は、順守派と過剰派に二分されていきます。順守派は、「國との契約書は守るべきだし、全国農協組織も協力する中で大潟村だけが反対しても成功するはずがない。村の将来に禍根を残す」と主張。一方、過剰派は、「農業は自由なもの、悪法は法にあらず」と農民の権利論を主張していました。その後も制度の手直しが繰り返されるたびに、対応をめぐつて紛糾。両派の対立の溝はますます深まつてきます。また、いわゆるヤニ米問題で世間から鬱鬱を買うなど、村そのものにネガティブなイメージがつきまとうようになつてしまします。

そんな状況下にあった昭和53年から、村の舵取り役を担うこととなつた私は、減反対応問題の解決に注力しましたが、一向に道筋が見えできませんでした。結局、就任から10年以上も経つた平成2年になり、国から「1農家当たり作付け割当面積15ヘクタールのすべてを水田と認知する」旨の方針が示され、大きな山を越した状況になりました。

さて、私は「タタタタ」との村をどうにかしなければ、自らを叱咤。あれこれと思いを巡らせた末、取り組むべきと結論づけたのが、確かにビジョンに基づく「村おこし」「村づくり」でした。村民の皆さん元気を応援したい。これまでの暗いイメージを払拭し、他地域の人たちも呼び込みたい。そのためには村の基幹産業である當農を核にした、あるいは

農作に関連づけた新しい仕掛けをつくり出し、発信していかなければならぬと考えました。この発想の延長線上において、具体的にいくつかのプロジェクト案が浮かび上がつてきます。その中に含まれていたのが、現在、当社で管理運営を手がける3つの施設だったのです。

## 3つの施設 それぞれへ、 お客様からのご支持

平成元年、秋田県で第1号となる常設の産直野菜センターが、大潟村に誕生しました。これから農業は生産していればよいのではなく、自ら売る努力をしなければならない。売る活動をしながら、人々との交流を通じて大潟村の良さを知つてもらい、リピートや紹介へと結びつけていく。この運営コンセプトに対し、多くの農家から賛同、支持が寄せられます。

主役となる女性の皆さんたちは、「ポルダーラー野菜グループ」という名の団体を結成。会則やルールなども決め、積極的な取り組みを繰り広げます。成果はめざましく、売り上げは急上昇していきます。グループは県内産直活動の先駆けとして、秋田県農業賞の優秀賞や、農水省の農産園芸

局長賞などを受賞しています。その後、さらに多くの女性グループからの援軍もあり、大潟村の特産品と野菜販売は大きく伸びていきました。店の狭さの解消のため改築を重ね、現在の店舗で3代目。24時間休憩所や公衆トイレなど、道の駅と同じ設備を整えてお客様をお迎えしてきました。県道沿いであっても道の駅を名乗れるようになった平成20年からは、「産直センター潟の店 道の駅おがた」として営業。産直過当競争気味の近年にあっても、県内トップクラスの売り上げ実績を維持し続けています。

続いて平成3年には、自治体温泉の先駆けとなる「ポルダー潟の湯」がオープンします。潟の中からは温泉が出る、と秋田大学の先生からアドバイスを受けたのが、そもそもの始まりでした。リスクも承知の上でボーリングにとりかかったところ、これが大正解。地下1,000mから、約40℃のお湯が湧き出てきたのです。専門家による調査で、全国的に珍しい湯質であることも判明。植物性の成分を多く含む、人肌にやさしく温まりやすい温泉だったのです。これはいける!と、具現化に着手。熱

め・温めの2つの温泉浴槽や超音波バス／バイオラバス、サウナなど充実の風呂設備に加え、お休み処やレストラン、特産品コーナーまで備えた立派な温泉保養施設の出来上がりとなりました。格段に手ごろな利用料金（風呂温泉・サウナ込みで1名300円・オープン当初）もあって、たちまち大評判に。大潟村内からはもちろん、周辺町村からも連日、多くの入館者を招き入れてきました。家庭では叶わない開放的なムードのもと、心も体もリフレッシュできる憩いの場として、今もなお家族連れやお年寄りグループを中心に多くの皆さんに利用していただいております。

平成8年には、県内にも数少ないリゾートライクなホテルとして「ホテルサンルーラル大潟」がオープン。かねてより、秋田県に青少年スポーツ合宿所の村内誘致を働きかけてきたものです。この施設のため、新たにもう一本温泉ボーリングをし成功、温泉付きホテルとなりました。



## ルーラル大潟に、 これからできること

村長在任期間中、株式会社ルーラル大潟の代表取締役社長も兼務しておりましたが、平成12年、61歳を迎えて村長引退を決断すると同時に、会社の經營からも身を退きました。それから10年も経つた頃、代表取締役会長として引き戻されることに。これも、何かの縁。ただ一生懸命に、やるだけ。そう自分に言い聞かせながら、重責

のなかで皆さまからご利用、ご支持いただき、「サンルーラル大潟」の名を広く知らしめていくのです。

のみならず、さまざまな生活シーン

のなかで皆さまからご利用、ご支持いただき、「サンルーラル大潟」へと、思いは膨らんでいきます。8階建ての最上階には、日本海に沈む夕陽や、世界遺産・白神山地の山並みまでも遠くに望める展望風呂「白神展望温泉」。多人数のパーティーや歌謡ショーなどの催しに、1000人収容の大ホール。お祝いごとや法事などに、人数に応じて選べる和洋の個室。そして地元・大潟産のコメや野菜、秋田名物の比内地鶏やハタハタなど吟味された素材で仕立てた、味わい豊かなメニューのみならず、さまざまな生活シーン

をこなしてきました。

令和2年には、指定管理者としての客観的評価を把握すべく、外部調査会社を使って一つの調査を実施しました。当社で管理運営する3施設を対象に、大潟村が当社側にどのくらいのお金を出したのか。一方、当社から大潟村側に対しても、どのくらいお返ししてきたのか。両方をキツチリと数字で比較しようというもの。最初の施設が発足した平成2年から、コロナ禍に見舞われる前の27年まで、計26年間の累計数字を見てみると。結果は、大潟村の投資額が36億6400万円であったのに対し、当社から村側へ納入した税金や施設利用料、修繕費、固定資産取得費などの金額は、37億25596万5779円と出ました。つまり26年間累計では6196万5779円、1年間平均では約238万円だけ多くお返ししてきましたことになります。地方自治体関連の三セクの中でも、珍しい例のようです。当社の施設管理運営の質の高さを裏付けてくれる、意義深い調査となりました。

昨今のコロナ禍の影響によって3施設ともダメージを被っているのは確かですが、それでも一定の業績を

維持し続けてきているのですから、まさに大健闘。ウィズコロナの流れとともに行動制限が解かれ、社会全体が通常の姿に戻りつつある今、いずれの施設にとっても再飛躍のチャンスがやってきたと考えます。サービスにいつそうの磨きをかけ、チャンスをつかみ取っていくべく、スタッフ一同が燃えているように感じられます。

大潟村においては、かねてより並木の村構想(昭和55年)やソーラーカー・ラリー＆ソーラーバイシクル・レース(平成6年)など、人を呼び込み、人の流れを生み出すような魅力的景観の整備、ならびに時代性と話題性に富んだイベント開催に取り組まれてきました。近年になつても、「自然エネルギー100%の村づくり」への挑戦宣言(令和4年)がなされ、具現化へと向かい始めています。

また、村を南北から挟もよう位置する秋田市の秋田港から能代市の能代港にかけた日本海沖合では、いくつもの洋上風力発電プロジェクトが進行中です。いずれも、村へ新たな人の流れをもたらすことでしょう。当社の施設管理運営には、この先もずっと追い風が吹き続けていくものと予想しております。

## 宮田正道 みやた せいどう

昭和13年、秋田県八竜村(現・三種町)に生まれる。県立金足農業高校卒業と同時に就農。八竜村村議会議員2期。同44年、八郎潟干拓地・大潟村へ入植。大潟村農協組合長を経て同53年、大潟村村長に就任(39歳)。6期・22年間の在任期間中、観光物産振興公社理事長ならびに(株)ルーラル大潟代表取締役社長を兼務。平成12年、村長等の役職から引退(61歳)。同21年、(株)ルーラル大潟へ代表取締役会長として復帰。著書に「ゼロから自治体を創ったらどうなるか?~元村長・宮田正道が語る大潟村のあゆみ~」(公職研刊)など

社名 株式会社ルーラル大潟

代表者 代表取締役会長 宮田正道  
代表取締役社長 高橋浩人

設立 平成7年

事業内容 ポルダー潟の湯、ホテルサンルーラル  
大潟、産直センター潟の店の管理運営

所在地 〒010-0441

秋田県南秋田郡大潟村字北1-3

電話 0185-45-3311

URL <https://www.sunrural-ogata.com/>  
資本金 2億円